

# 肝炎ウイルス検診低受診率地域における 肝炎医療コーディネーターの認知度と ウイルス性肝炎に対する意識調査

○東城 弘幸<sup>1</sup> 西垣 賢<sup>2</sup>

( 1 : サン薬局京終店 2 : サン薬局天理東2号店)

## 目的

我が国の肝がんの主な原因は、ウイルス性肝炎である。  
このウイルス性肝炎からの肝硬変や肝がんの死亡を減少させるために、まずはすべての国民が一生に一度は何らかの手段で肝炎ウイルス検査を受検することが不可欠である。  
一方、奈良県においては肝炎ウイルス受検率が全国平均より低く、感染を知らない潜在感染者が多数存在している可能性がある。潜在感染者の拾い上げのためには、肝炎検査の周知と検査を広く行い、効率的に肝炎検査陽性者を拾い上げることが重要である。我々は、2018年および2019年に肝炎受診促進キャンペーンをサン薬局全店で行うなど、肝炎検査啓発活動を実施してきた。今回、肝炎をテーマとする、薬剤師を対象とした研修会にて、参加者に対しアンケート調査を実施したので報告する。

## 方法

2021年9月に行われた研修会への参加者に対し、Googleフォームを利用したWEBアンケート調査により、事前と事後で肝炎医療コーディネーターの取得意欲と肝炎に関わる自己理解度（10段階評価）の検討を行なった。

### 事前アンケート質問内容

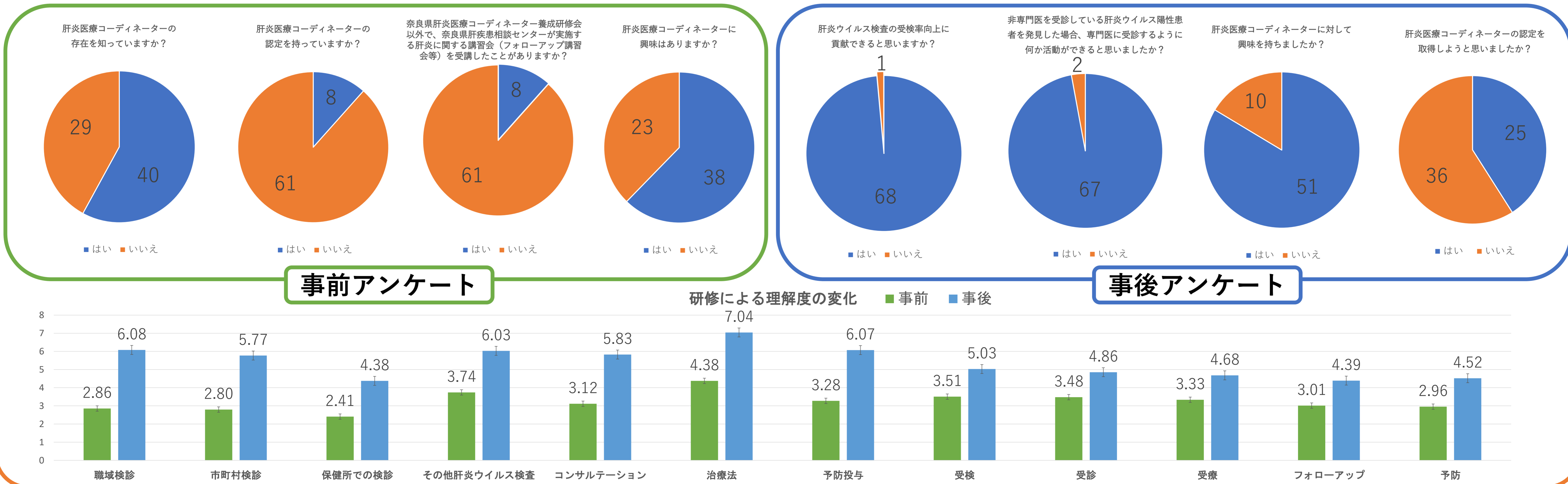
- 肝炎医療コーディネーターの存在を知っていますか？  
はい/いいえ
- 肝炎医療コーディネーターの認定を持っていますか？  
はい/いいえ
- 奈良県肝炎医療コーディネーター養成研修会以外で、奈良県肝疾患相談センターが実施する肝炎に関する講習会（フォローアップ講習会等）を受講したことがありますか？  
はい/いいえ
- 肝炎医療コーディネーターに興味はありますか？  
はい/いいえ
- ウイルス性肝炎からの肝硬変や肝がんの死亡率を減少させるためには、  
① 肝炎ウイルス検査を「受検」し、  
② 検査結果で感染が疑われれば精密検査を「受診」し、  
③ 可能な限り抗ウイルス治療を「受療」する、  
そして④ウイルス排除を含めた治療後も定期的な肝がんサーベイランスを目的とした「フォローアップ」を続けることが重要である事について、それぞれ4つのステップについて自信をもって説明できる。  
[受検] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[受療] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[受診] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[フォローアップ] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 前問の4つのステップに加えて、日常における感染対策やワクチン接種、さらに差別や偏見に対する配慮など広く情報を認知する「予防」を含めた5つのステップが適切に進むことが重要であると自信をもって説明できる。  
[予防] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 肝炎検査目的における以下の3つの検査の種類について、それぞれ自信をもって説明できる。  
[職域検診（職場の健康診断）] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[健康増進事業（市町村健診）] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[特定感染症検査等事業（主に保健所）] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 感染予防目的において「妊娠健診」「手術前のスクリーニング検査」「献血」で肝炎ウイルス検査が実施されている事について自信をもって説明できる。  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 入院時や手術前に実施された肝炎ウイルス検査で陽性となった患者について専門医にコンサルテーションするなど、陽性指摘後のフォローアップの重要性について自信をもって説明できる。  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- C型肝炎治療において、インターフェロンフリーといった、従来よりも体への負担が少なく治療効果が高い新しい治療法があることを自信をもって説明できる。  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- B型肝炎ウイルス感染者または既往感染者において、化学療法・免疫抑制療法開始前にHBs抗原・HBc抗体・HBs抗体の測定や必要に応じてHBV-DNAモニタリングを行い、その結果から核酸アナログを予防投与することを、自信をもって説明できる。  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

### 事後アンケート質問内容

- 肝炎ウイルス検査の受検率向上に貢献できると感じますか？  
はい/いいえ
- 非専門医を受診している肝炎ウイルス陽性患者を発見した場合、専門医を受診するように何か活動ができると感じましたか？  
はい/いいえ
- 肝炎医療コーディネーターの認定はお持ちですか？  
はい/いいえ
- 肝炎医療コーディネーターに対して興味を持ちましたか？  
はい/いいえ
- 肝炎医療コーディネーターの認定を取得しようと思いましたか？  
はい/いいえ
- ウイルス性肝炎からの肝硬変や肝がんの死亡率を減少させるためには、  
① 肝炎ウイルス検査を「受検」し、  
② 検査結果で感染が疑われれば精密検査を「受診」し、  
③ 可能な限り抗ウイルス治療を「受療」する、  
そして④ウイルス排除を含めた治療後も定期的な肝がんサーベイランスを目的とした「フォローアップ」を続けることが重要である事について、それぞれ4つのステップについて自信をもって説明できる。  
[受検] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[受診] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[受療] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[フォローアップ] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 前問の4つのステップに加えて、日常における感染対策やワクチン接種、さらに差別や偏見に対する配慮など広く情報を認知する「予防」を含めた5つのステップが適切に進むことが重要であると自信をもって説明できる。  
[予防] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 肝炎検査目的における以下の3つの検査の種類について、それぞれ自信をもって説明できる。  
[職域検診（職場の健康診断）] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[健康増進事業（市町村健診）] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
[特定感染症検査等事業（主に保健所）] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 感染予防目的において「妊娠健診」「手術前のスクリーニング検査」「献血」で肝炎ウイルス検査が実施されている事について自信をもって説明できる。  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 入院時や手術前に実施された肝炎ウイルス検査で陽性となった患者について専門医にコンサルテーションするなど、陽性指摘後のフォローアップの重要性について自信をもって説明できる。  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- C型肝炎治療において、インターフェロンフリーといった、従来よりも体への負担が少なく治療効果が高い新しい治療法があることを自信をもって説明できる。  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- B型肝炎ウイルス感染者または既往感染者において、化学療法・免疫抑制療法開始前にHBs抗原・HBc抗体・HBs抗体の測定や必要に応じてHBV-DNAモニタリングを行い、その結果から核酸アナログを予防投与することを、自信をもって説明できる。  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

## 結果

アンケートの回答者は69名（薬局薬剤師51名／病院薬剤師18名）であった。



## 考察

肝炎医療コーディネーターは身近な地域、病院等に配置され、肝炎に関する基礎的な知識や情報を提供し、肝炎への理解の浸透、受検や受診の勧奨、制度の説明などを行う。今回の研修会により参加者の肝炎に対する啓発活動への意識と知識の向上が得られた。今後、研修会参加者からコーディネーターの認定につながり、それぞれの職種や立ち位置を活かして活躍することが望まれる。